【ニホンザル部会】

項目	意見の概要	回答
ニホンザル管理事業実施計画について	1)　例年指摘してきたことだが、被害防除計画における管理計画の「目標は過去 3 カ年の平均を下回る」とされてきた．だがこれまで一度も過去 3 カ年の平均という「数字」を見たことがない（今年はかろうじて資料 4 の 3 頁に一部が示されている）．従って、この過去 3 年間の移動平均線が上昇（つまり被害増加）傾向にあるのか、下降（被害減少）傾向にあるのかが、この目標設定からは読み取りようがない． 　このトレンドがはっきり確認されないと、目標設定の妥当性が分からないし、場合によっては、年々増加傾向にある被害実態を見逃すことにもなりかねない。被害そのものは年変動があり，３年程度を区切りとして見る必要があると思うが，長期トレンドがはっきり出るような示し方をして欲しい。 　資料 4 に被害面積・金額の推移が示してあるが，最近は一定のところで横ばいになっているように見える。これをどう考えるのか。とりあえず抑え込めるだけのことはした結果だと考えるのか，それともまだまだできることはあるがとりあえずのバランスでそうなっていると考えるのか，それによっては先の計画の立てかたが変わってくる，そして各市町村の目標値も過去３カ年の平均値とさほど関係していないように思える。各市町村とも，「３カ年平均を下回る」目標とは意識していないのではないか？ 　例えば，被害量は減っているのに，なぜか目標値は前年より高い被害量を目標にしている市町村がある（白石、蔵王、山元）。各市町村毎に事情があり，一律に定めても意味がないが。なぜ被害が減少してきているのに被害額目標は高く設定されるのか，その理由付けが必要である。 　なお七ヶ宿は「昨年度実績の 2 割減」を目標とあるが，そうはなっていない。加美町も同じ問題がある。	・　資料は同じものを提示しており，３ヶ年平均については一つの目安として算出しているもので，県全体の動向を数値化したものです。 ・　今後は群れ評価と農作物分類など，関連した被害状況を分析し，より実態に即した指標となるよう検討して参ります。 ・　市町の被害想定については，県の計画目標を理解頂けるよう協議を進めて参ります。
	2)　これまで示された課題に対して，計画案を示すだけでなく，何をどのように改善したのかを示す資料が必要。宮城県では，サル捕獲のほとんどが有害捕獲で占められているが，管理計画に基づくのであれば，個体数調整で捕獲すべきではないか。対症療法的な捕獲が主となっている現状で，計画上の個体数調整による評価は意味をなしていないと思われる。 また，ＧＰＳ装着などのモニタリング項目が，具体的にどのように管理計画上有効な手段であるのかみえない。調査の具体的効果を示して	・　市町側と協議し，計画に基づく改善結果の説明方法を検討するとともに，調査結果が管

項目	意見の概要	回答
	ほしい。	理計画に適正に反映できるよう検討してまいります。
	3)　七ヶ宿では被害が増加している。電気柵とワイヤーメッシュが老朽化した影響かと思われるが，七ヶ宿は以前から群れ数が多く被害も大きかった，そろそろこの町での対策をどのような方向でやっていこうとするのか，考えるべきところに来ているのではないか。捕獲予定数が大幅に増えているが。賛成する.	・　七ヶ宿町側と協議し，対応を検討して参ります。
	4)　仙台市の被害が大きく減った理由として，ＷＦの群れ捕獲を進めてきたことが大きかったと思われる。今後，ＷＦランクとなる群れを作らないことが重要だと考える。	・　今後とも仙台市と協力して評価を継続するとともに，追い上げや被害防止に取り組んで参ります。
	5)　近年、福島県との境の市町村で群れ数が増えているように思える。これは移入してきているのだろうか。それとも地区内での増加が主たる要因なのだろうか。七ヶ宿などはそもそも福島県側から入ってきた個体群だった。東は丸森で止まるだろうが，東北山地沿いではまだ移入する群れが北上していく可能性は大きい。将来の問題として，どう食い止めていくかを考える必要がある。	・　各市町と情報共有し，検討してまいります。
	6)　個体数のグラフを見る限り，宮城県に生息する個体数はほぼ頭打ちになっているようである。当然，動的な平衡状態というのが考えられるが，そのつど計画そのものも重点が変わっていく必要がある。県中北部はいちおうそれなりに安定した状態におちついてきたと思われるが，南部は早い時期に将来を見越して，対策を考えるべきであろう。早めの対策が費用も効果も一番確かだからである。	・　県南各市町と情報共有し，検討してまいります。
	7)　七ヶ宿町と加美町の被害額が高いのが気になります。 加美町は生息頭数に比べ被害額が高く，畑への出没回数が多いことが推測されます。 また，七ヶ宿町はサルの生息頭数も多く，過去の被害額の推移を見ても振れ幅が大きいことがうかがえます。今後もこの傾向は続くことでしょう。 いずれにしても各市町村，また県の担当者の方々の真摯な業務を期待致します。	・　令和２年度において，加美地区を集中して調査を委託し，群れの変動について確認中です。